

世界の国や地域におけるSDGs達成のために、  
私たちができるアクションについて



自分をマモル、相手をマモル、

# 「オマモリ Project」



**性**に関する正しい知識を身に付け、  
自分と相手の心と身体、未来を守ってほしい。  
そんな願いから生まれたプロジェクトを提案します。

## なぜ性の問題について取り上げるのか？

---

若者の身近にある**社会問題**は何があるだろう？



- ・ コロナ禍の影響でアルバイトを失ったことにより、「パパ活」や「援助交際」が増えていること
- ・ 出会い系サイトやアプリでのトラブルの増加
- ・ コロナ禍の自粛生活による「望まない妊娠」の増加

私たちが「**自分ゴト**」に感じる問題は・・・？

## なぜ性の問題について取り上げるのか？

---

### 私たちの身近で起こっていること



大学在学中に出産をして大学を中退した

就職活動中に妊娠をして中絶した



避妊をせずに性行為をしてしまい、  
精神的不安から体調が崩れてしまった

このような「望まない妊娠」に関する話を日常生活で多く耳にするという事実気が付きました。

そこで、私たちは、性に関する社会問題の中でも  
「**望まない妊娠の増加**」に関する問題を  
解決しなければならない課題であると考えます。

# 「望まない妊娠」の問題の根本的な原因を見つけるためのロジックツリー

## 身近な問題

大学在学中に出産をして  
大学を中退した

就職活動中に妊娠をして  
中絶した

避妊をせずに性行為をしてしま  
い、精神的不安から体調が崩れ  
てしまった

正しい避妊ができていない

性に関する話を周囲に相  
談できない

避妊方法を知らない  
間違った認識をしている

学校では教わることができ  
ない知識がある

パートナーとの意思疎通  
ができていない

避妊に対する意識が低く  
なってしまう

学校では性の問題に対して触れて  
はいけないという雰囲気がある

性に関する話について話すこと  
に抵抗がある

性に関する問題を身近なもの  
として認識していない

性の知識は、知っていることが  
恥ずかしい知識

## 根本的な原因

## ロジックツリーから判明した因果関係

---

「望まない妊娠」の問題の根本的な原因は、

- ・ 性に関する問題を身近なものとして認識していないこと
- ・ 性の知識は、知っていることが恥ずかしいという認識があること

であると考えます。

国際開発センターによると、  
望まない妊娠を防ぐことにより、さまざまな課題解決に繋がることがわかります。

**女性の身体的・精神的・社会的な健康を維持するために  
「人が安全で満ち足りた性生活を営み、結婚をするかしない  
か、子どもを産むか産まないか、産むなら何人産むかを  
自由に決められること」が求められます。**

**自らの意思によって、女性およびカップルが結婚、妊娠な  
どの時期を決定することができれば、女性が教育を終了し、  
将来の選択肢を広げるための一助にもなり、  
ジェンダー平等の推進につながることを期待されるのです。**

つまり . . . .

性の問題を身近なものだと認識すること  
性の知識は知らない方が恥ずかしいという意識の改革



《期待できる課題解決の結果》

- ①女性の身体的・精神的・社会的な健康を維持することができる。
- ②自らの意思により女性およびカップルが結婚、妊娠などの時期を決定することができる。
- ③女性の教育環境を守り、将来の選択肢を広げるための一助になる。
- ④ジェンダー平等の推進につながることを期待される。



## オマモリProject が貢献するSDGsのゴールは？

---



私たちは、「望まない妊娠」に関する問題を解決することで、5つのゴール達成に貢献できると考えます。

# オマモリProject が想定するターゲットは？

|      |   |
|------|---|
| 3-1  | 2030年までに、赤ちゃんがおなかの中にいるときや、お産のときに、命を失ってしまうお母さんを、2030年までに、産まれる赤ちゃん10万人あたり70人未満まで減らす。  |
| 3-2  | すべての国で、生まれて28日以内に命を失う赤ちゃんの数を1000人あたり12人以下まで、5さいまでに命を失う子どもの数を1000人あたり25人以下まで減らし、2030年までに、赤ちゃんやおさない子どもが、予防できる原因で命を失うことがないようにする。                                       |
| 3-7  | 2030年までに、すべての人が、性や子どもを産むことに関して、保健サービスや教育を受け、情報を得られるようにする。国はこれらを国の計画のなかに入れてすすめる。   |
| 4-2  | 2030年までに、すべての子どもが、幼稚園や保育園にかよったりして、小学校にあがるための準備ができるようにする。  |
| 4-7  | 2030年までに、教育を受けるすべての人が、持続可能な社会をつくっていくために必要な知識や技術を身につけられるようにする。そのために、たとえば、持続可能な社会をつくるための教育や、持続可能な生活のしかた、人権や男女の平等、平和や暴力を使わないこと、世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。 |
| 5-2  | 女性や女の子を売り買いしたり、性的に、また、その他の目的で一方向的に利用することをふくめ、すべての女性や女の子へのあらゆる暴力をなくす。  |
| 5-3  | 子どもの結婚、早すぎる結婚、強制的な結婚、女性器を刃物で切りとる慣習など、女性や女の子を傷つけるならわしをなくす。   |
| 5-6  | 国際的な会議で決まったことにしたがって、世界中だれもが同じように、性に関することや子どもを産むことに関する健康と権利が守られるようにする。   |
| 10-2 | 2030年までに、年齢、性別、障がい、人種、民族、生まれ、宗教、経済状態などにかかわらず、すべての人が、能力を高め、社会的、経済的、政治的に取り残されないようにすすめる。   |
| 16-1 | あらゆる場所で、あらゆる形の暴力と、暴力による死を大きく減らす。  |
| 16-1 | 子どもに対する虐待、搾取、人身売買、あらゆる形の暴力や拷問をなくす。  |

では、日本の性教育や性行為での**現状**はどうなっているのでしょうか？

---

性教育を十分に行わないまま、性行為に臨んでしまう



望まない妊娠をしてしまうリスクが高まる



妊娠中絶に至るリスクも高まる

という**負の連鎖**が生まれています。

### 高校生の性知識

ピルコンの調査での  
平均正答率：

**30%**

#### 主な問題（抜粋）と正答率

- Q1.  
排卵はいつも月経中に起こる…**18%**
- Q2.  
低用量ピルは女性が正しく服用することでほぼ確実に避妊できる…**17%**
- Q3.  
低用量ピルには月経痛や月経不順の改善の効果がある …**19%**

### 高校生の性意識

リスクの認識に比べ、  
**対処行動への  
自信は少ない**

Q1.  
自分も性関係をもてば、性感染症や妊娠と  
いったリスクは関係あることだと思う

**70%**がそう思うと回答

Q2.  
将来の性関係において、妊娠を希望して  
いない時は避妊ができると思う

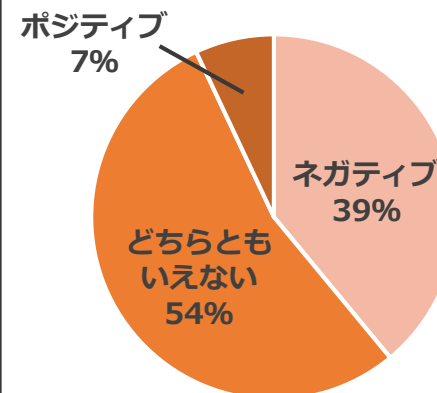
**44%**がそう思うと回答

Q2.  
自分や相手の将来と結びつけて、  
これからの性行動を選択しようと思う

**54%**がそう思うと回答

### 性に対するイメージ

性交を知った時の印象



#### 【ネガティブ】

いけないこと、嫌らしいこと、グロイ、子づくりとは無関係の大人がやる汚い遊び

#### 【どちらともいえない】

驚いた、子どもをつくるためのもの、信じられなかった、何やらわからないけどエッチなもの

コロナ禍で**望まない妊娠**をするケースが増えている

---

東京都の窓口「妊娠相談ほっとライン」

2020年4月の相談件数は**365件**、前月同月比で**約2割増加**

神戸市の助産院を拠点とした妊婦向けの相談窓口「小さいのちのドア」

2020年4月から相談件数が急増。

4月89人、5月120人、6月148人、7月152人と  
コロナ前と比べて**約5倍**に増加。

うち**10歳代**の相談は**7割**を占める。

## 若年層の出産数、中絶率と中絶選択率

| 年齢（歳） | 出産数A   | 中絶数B   | $B/(A+B)\%$<br>中絶選択率 |
|-------|--------|--------|----------------------|
| <20   | 9,898  | 14,128 | 59%                  |
| 20-24 | 79,264 | 39,270 | 33%                  |

**20代以下の中絶選択率は約6割にもなる。**

そこで、私たちは

# 「オマモリ Project」

を提案します。



## オマモリProject の概要

**Why (目的)** : 正しい性の知識を身に付ける場を作り、性の問題を身近なものだと認識してもらうこと。

**Who (ターゲット)** :  
高校生、大学生の男女  
(選定理由 : 中絶選択率が高いことから)

**What (コンセプト)** :  
自分と相手の心と身体を守る。

**Where (提供チャネル)** :  
スマホアプリの活用・高校、大学を通じて避妊グッズなどを提供する。

**When (タイミング)** :  
ターゲットが初めて性行為に至るまで

**How (手段)** : 協賛 (賛同) 企業と学校と提携を行う。



## オマモリProject 提案内容①



スマホアプリを活用して、  
若者向けに性教育の推進を行います。

**当アプリの目的：性教育を身近に学んでもらいたい！**

ショートムービーで  
性に関する必要な知識を  
学習する



クイズに答えて  
知識の定着度を確認



クイズをクリアすると  
“オマモリライセンス”  
を認定！！



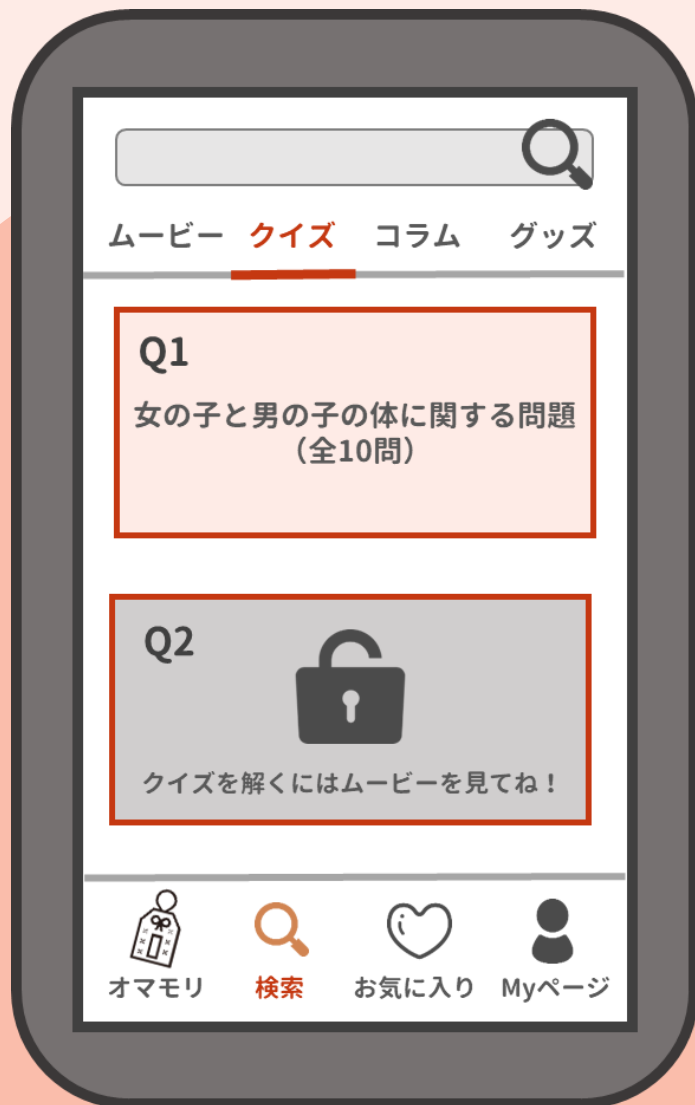
オマモリライセンスの  
ステージが上がると  
特典の幅が広がる！



当アプリは、協賛(賛同)企業の関連店舗や高校、大学での  
ポスターの掲示やフライヤーの配布でプロモーションをしていきます！

# オマモリProject 提案内容①

## アプリ運用イメージ



**Myページ**：会員登録状況を見ることができる



**お気に入り**：ムービーやコラムをお気に入りに登録することができる。



**検索**：ムービーやコラム、グッズを検索することができる。



**オマモリ**：クイズをクリアするとゲットできるライセンスを表示する。

### 【ムービー】

ショートドラマで構成され、ターゲット層が興味を持つてみることができるように作成する。1本5分程度。

(例：AbemaTV「17.3 about a sex」)

### 【クイズ】

ムービーで学んだ知識に応じてクイズが解禁されていく。1つの大問に対して10問程度。

### 【コラム】

ライターを募集し、性や恋愛に関するコラムを掲載する。

### 【グッズ】

女性が使いやすい避妊具などのグッズを紹介する。

# オマモリProject 提案内容①

## アプリ運用イメージ



### オマモリライセンスの目的

性に関する、自分の行動や相手の行動を選択するときの、1つの判断材料となることができる。

### Stageについて

Stageは1～5段階で、クイズの達成に応じて段階がアップする。また、そのステージに応じてクーポンの幅も広がる。

### クーポンについて

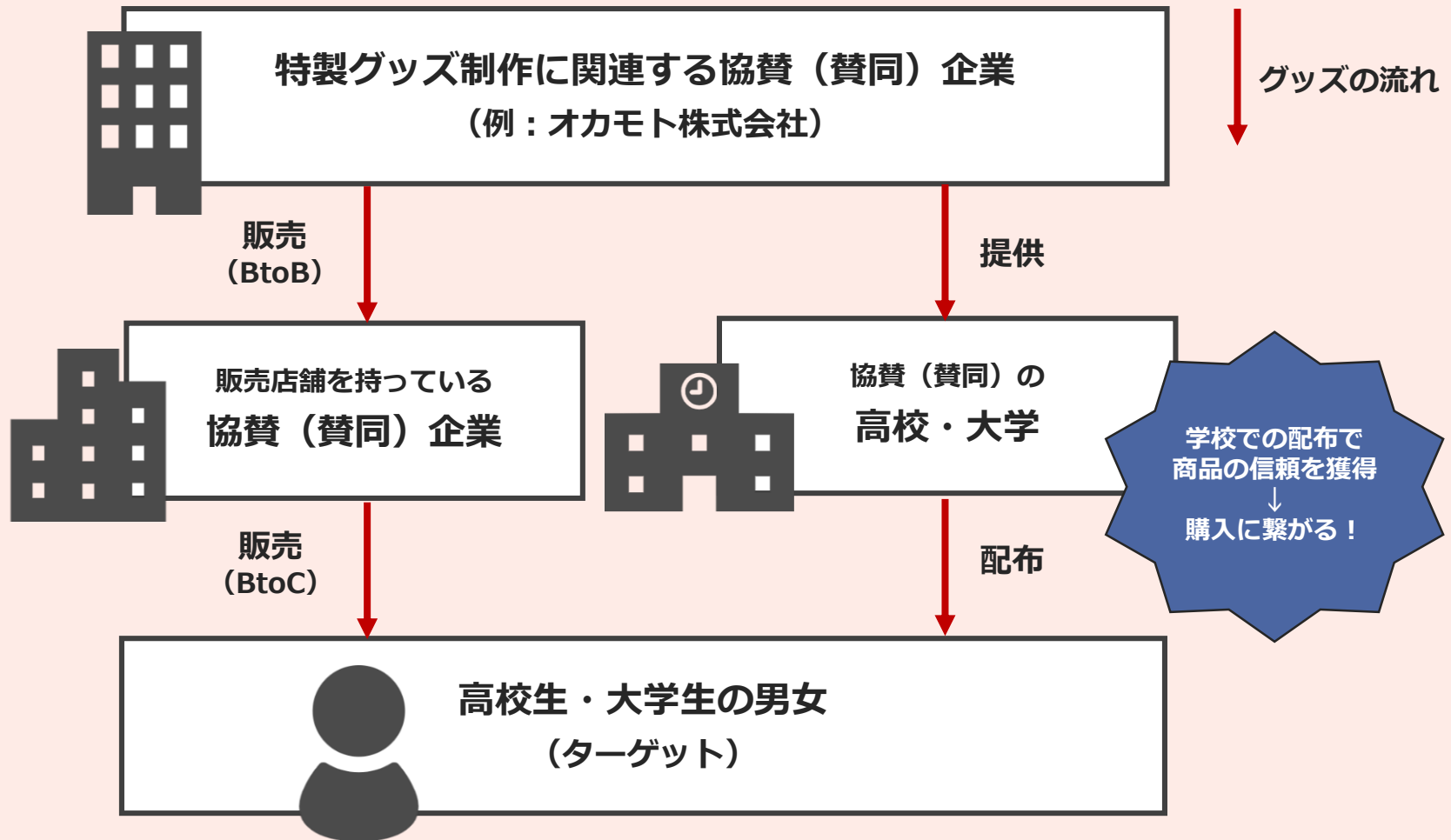
クーポンは協賛（賛同）企業の関連店舗等で使うことができる。このライセンス画面を見せるだけで利用することができる。

## オマモリProject 提案内容②



協賛企業・学校と提携し、避妊グッズの販売と配布を行います。

### オマモリグッズ配布・販売の仕組み



## オマモリProject 提案内容②

### 特製グッズイメージ

#### 一般的な避妊具（コンドーム）



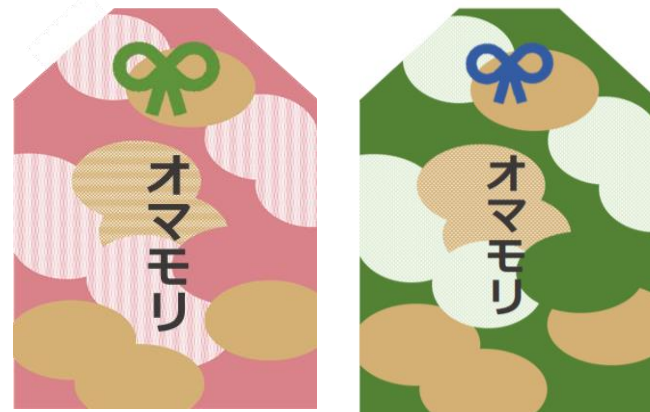
参考：「オカモトゼロワン」

- ・ 男性向けのデザインが多い
- ・ 黒やゴールドの色遣いで非日常感がある
- ・ カバンの中で目立つデザイン



女性にとっては購入しずらく、持ち歩きにくいデザインである。

#### オマモリProjectで販売・配布する 避妊具（コンドーム）



商品パッケージのイメージ

- ・ 日本人が持ち歩く習慣のある「お守り型」のパッケージ
- ・ 日常品に馴染むような色遣い



カバンの中でも違和感がなく、  
購入しやすく、持ち歩きやすいデザイン

# 各所の関係性

高校生・大学生の  
男女  
(ターゲット)

Win!

クーポンを贈呈

クーポンの利用

グッズの配布  
正しい性教育

健康的な学生生活を送る

Win!

Win!

協賛 (賛同)  
企業



オマモリグッズの提供※

協賛 (賛同)  
高校・大学



企業に関するプロモーションを行う  
(学内にポスターを貼る、コラボ講義を行うなど)

※オマモリグッズの提供は避妊具などに関連している企業に限ります。

## 想定する協賛（賛同）企業

ミュゼプラチナム（脱毛サロン）

PEACH JOHN、ワコール（下着メーカー）

資生堂（化粧品）

GU、ユニクロ、ジェラートピケ（アパレル）

LOFT、PLAZA、アインズ&トルペ（ドラッグストア・雑貨店）

オカモト（避妊具メーカー）



**オマモリProject は、**

**性教育の促進だけでなく、性の知識に対してのイメージの改善と、誰もが性行動での正しい選択をすることができる社会を作ります。**

**私たちを含むすべての男女が正しい知識を持つことで、自由に将来の選択をすることができ、それにより日本のジェンダー平等への第一歩に繋がります。**

